

1 単元 可能性は無限大！？私たちの修学旅行プラン！

～Where do you want to go? (ONE WORLD Smiles 5年)～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、「聞いて聞いて、自慢の家族！ ～I can run fast.～」において、自分、または第三者のできること、できないことを紹介する経験をしている。そこでは、質問して得た、紹介する第三者の情報を整理し、自分の考えを伝える基礎的な力を育成してきた。しかし、英語で紹介するということだけに集中してしまうあまり、一方的な紹介となり、紹介を聞く相手へ理解を促すための工夫を取り入れる子どもは少なかったと思われる。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、自分の行きたい場所やそこでしたいことなどを相手に伝えたり、相手がどこで何をしたいかを尋ねたりして、考えを伝え合う教材である。子どもは、自分の考えを一方的に伝えるだけでは、共感が得られないことから、紹介を聞く相手を意識して紹介する工夫を取り入れるだろう。ここでは、今までの学習の中で行ってきた紹介を振り返りながら、考えを伝えるための英語表現や伝え方の工夫を用いて、整理した情報を相手に伝えることを大切にしたい。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元導入時に、6年生による修学旅行おすすめプランの紹介動画を視聴する活動を設定する。そうすることで、来年度の修学旅行への思いを高め、学習する目的や場面を理解し、今後の見通しをもつことができるようにする。
- 紹介を評価するための観点を子どもと決める活動を設定する。そうすることで、目指すべき紹介の様子が明確になり、目指す姿と自分たちを比較し、自分の紹介を振り返って改善点を見付けたり、今後の紹介をよりよいものにしようとしたりすることができるようにする。
- 単元終末に、自分たちで決めた観点をもとに、一番よいと思われる紹介を決める場を設ける。そうすることで、自己評価と他者評価のどちらも知ることができ、お互いのよさや改善点に気付くことができるようにする。

3 目標

相手に自分の行きたい場所やしたいことをよく知ってもらったり、相手の行きたい場所やしたいことをよく知ったりするために、修学旅行プランについての短い話を聞いて概要を捉えたり、自分や友達の伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自分の考えた修学旅行プランについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

4 well-beingにつながる学びについて

本学園では、well-beingを「個人だけでなく、社会や地球環境まで含めた全体的に良好な状態」と捉えている。well-beingの実現には、教科等の本質に迫る授業で身に付けた資質・能力を、人生において自在に発揮できる子どもを育成することが必要不可欠である。そのためには、エージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）の育成及び発揮が重要な課題であると考えている。

本学園の外国語科部では、既得の知識や経験を生かしてコミュニケーションを図ろうとする子どもを育成する授業が、教科の本質に迫る授業だと捉えている。また、エージェンシーを発揮している姿を、いろいろな話題で、互いの想いを伝え合い、ジレンマに対処する姿だと捉えている。本単元においては、評価の観点を子どもとともに考え、決定し、振り返る活動を設定する。子どもたち自身が決めた観点に向けて、自らよりよいと思う学びをめざして、単元での学びだけでなく、既得の知識を生かしたり、子ども同士で協働して学習を進めようとしたりする様相がエージェンシーを発揮した姿だと考えている。

このような学習を経験した子どもは、目的・場面・状況に応じた適切な表現を考え、自分の想いを伝え合うことを通して、他者理解を深めながら、社会（他者）と良好な関係を築くことができるようになり、well-beingの実現につながるだろう。

5 指導と評価の計画（総時数 7時間）

本単元における評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	〈知識〉 “I want to go to ～.”や希望を伝える“I want to go to ～.”，“Where do you want to go?”の表現について理解している。 〈技能〉 相手がどこに行きたいか、そこでしたいことは何かなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	相手の行きたい場所やしたいことなどをよく知るために、具体的な情報を聞き取っている。	相手の行きたい場所やしたいことなどをよく知るために、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと 「発表」	〈知識〉 “I want to go to ～.”や希望を伝える“I want to go to ～.”，“Where do you want to go?”の表現について理解している。 〈技能〉 自分の行きたい場所やしたいこと、理由を伝える表現などを用いて、理由や気持ちなどを話す技能を身に付けている。	相手によりよく分かってもらえるように、修学旅行で行きたい場所やそこでしたいことなどについて、考えや気持ちなどを話している。	相手によりよく分かってもらえるように、修学旅行で行きたい場所やそこでしたいことなどについて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

※本単元における「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

単元終末における評価の観点（子どもが挙げそうな例）

- ・ 聞いている人も楽しめそうな内容が含まれている
- ・ 聞く相手の理解を促す英語表現や工夫（ジェスチャーや提示資料）がある など

本単元における学習計画と評価

次	学習活動・内容	評価			
		知技	思考 判断表	態度	評価規準〈評価方法〉
一 ①	○ 6年生による修学旅行おすすめプランの紹介を聞き、単元の見通しをもつ ・希望を伝える英語表現	本 向 な 認	時 け い る	で は、 導 に お い て も、 教 師 が 児 童 の 学 習 状 況 を 確 認 す る。	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ確 導を行っても、児童教師が児童の学習状況を記録している。
	㊤ 具体的な場面を想像させたり、実際に修学旅行に行ったりすることで、自分事として考えたりすることができるようにする				
二 ③	○ 修学旅行先について、選んだ理由を伝え合う ・理由を伝える英語表現	発			[話すこと(発表)]の記録に残す評価 ◎ 修学旅行先やしたいことについて、I want to ***. の表現を用いて、話している。〈行動観察〉
本 時 3 ／ 3	○ 個人で修学旅行プランを計画し、紹介するための準備を行う ・計画を伝えるための英語表現	本 向 な 認	時 け い る	で は、 導 に お い て も、 教 師 が 児 童 の 学 習 状 況 を 確 認 す る。	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ確 導を行っても、児童教師が児童の学習状況を記録している。
	● 互いの修学旅行プランを聞き合い、単元終末の観点を決める ・単元終末のスピーチにおける評価の観点	発 開	発 開		[話すこと(発表)]の記録に残す評価 ◎ 修学旅行プランについて、友達に伝えるために、必要な英語表現を選択し、話している。〈行動観察(記録画)〉 ◎ 修学旅行プランについて、友達に伝えるために、必要になる英語表現を選択し、話そうとする。その後、自分の紹介を振り返り、話し合ったところをきく。〈行動観察・振り返りシート記述点検〉 [聞くこと]の記録に残す評価 ◎ 修学旅行プランの話聞いて、具体的な情報を聞き取っている。〈ワークシート記述点検〉 ◎ 修学旅行プランの話聞いて、具体的な情報を聞き取る。〈ワークシート記述点検〉
	㊥ 単元の終末に行うプレゼンに必要な英語表現をあらかじめ自分の考えを伝えるために、どの英語表現が適切かを考えることができるようにする				
	㊦ 観点を自分達で決めることで、ゴールを明確にし、めざす方向性を揃えて学習に向かうことができるようにする				
三 ③	○ 班で修学旅行プランを計画する ・班の考えを伝えるために必要な英語表現	本 向 な 認	時 け い る	で は、 導 に お い て も、 教 師 が 児 童 の 学 習 状 況 を 確 認 す る。	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ確 導を行っても、児童教師が児童の学習状況を記録している。
	○ 修学旅行プランについてのプレゼン練習を行う ・評価の観点に対する自分たちの紹介の評価	本 向 な 認	時 け い る	で は、 導 に お い て も、 教 師 が 児 童 の 学 習 状 況 を 確 認 す る。	は、記録に残す評価は行わないが、目標にさ確 導を行っても、児童教師が児童の学習状況を記録している。
	○ 修学旅行プランを紹介し合う ・評価の観点に対する他のグループのよさや自分たちの紹介の改善点 ・今後の見通し				
	㊧ アレバ、今までの活動を振り返って、良かったところ、頑張ったところ、次回に向けての目標などを話し合えるようになる				

6 本時案 ー第二次・3 時分ー

(1) 主眼 個人で計画した修学旅行プランを紹介し合い、一番よいと思うプレゼンターを選ぶ活動を通して、どうすれば相手によく伝わる紹介になるのかに気付き、そこから単元終末における評価の観点を決めることができる。

(2) 準備 振り返りシート、ピクチャーカード など

(3) 学習の展開

学習活動・内容（発問）	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 個人で計画した修学旅行プランについて、班で紹介し合う 自分の考えた修学旅行プランを紹介しよう ・行きたい場所を伝える英語表現	ア 私は東京で観光がしたいよ。だから、“I want to go to Tokyo. I want to take pictures at Sky Tree.”と伝えるよ イ 私は広島で野球を観たいから、それをプランに取り入れたよ。“I want to go to Hiroshima. I want to watch the baseball game.”と言ってみよう ウ 私は京都に行きたいな。 “I want to go to Osaka & Kyoto. I like matcha. So, I want to drink matcha.”と好みも伝えてみようかな	・ 前時までに個人で計画した修学旅行のプランを班で全員に伝えさせることで、様々な内容の紹介があり、評価するには基準がいることに気付くことができるようにする	20
2 修学旅行プランについての紹介を聞いて、一番よいと思うプレゼンターを決める 一番よいと思うプレゼンターは誰か。それはなぜか ・自分の考えを相手に伝えるために気を付けたいポイント	ア Aさんは、伝えるときにジェスチャーを用いていて、聞いていた私にとってはとても分かりやすかったから、Aさんが一番よかったと思うよ イ Bくんの修学旅行なら僕も楽しめそうだから、Bくんの紹介が一番だと思うな ウ 何を大事にして一番を決めるかは人それぞれだね エ 評価する観点を先に決めておくと、お互いに評価しやすいね	・ 班のメンバーが何をもとにその人物を選んだのかを明らかにすることで、考えを伝えるためには、いろいろな工夫の仕方があることに気付くことができるようにする ・ 選んだ基準を統一することで、全員にとっての「一番」を選びやすくなるということに気付くことができるようにする	30
3 互いの紹介のよい点をもとに、単元終末での評価の観点を決める クラスでプランを紹介し合い、代表を決めるときの基準は何か ・単元終末の評価の観点	ア 伝わりやすさは大事だよ。ジェスチャーがあると、相手にわかってもらいやすいからある方がいいと思うよ イ 伝え方も大事だけど、自分たちが楽しめるというのも大事だと思うから、内容も大切にしたいね ウ クラスのみんなにも行きたいと思ってもらえる紹介じゃないとだめだね	・ 教師が評価の観点を提示するのではなく、子どもと作り上げることで、プレゼンターとして目指したい姿が明確となり、自分で学びを進めたり、自己を振り返って学びを調整したりすることができるようにする	45

(4) 評価基準と方法

選んだプレゼンターのよいところに気付き、自分の紹介がどうであったか、今後の紹介で意識したいことは何かを見付けることができたか、発言や振り返りからみとる

<メモ>